海の学び ミュージアムサポート Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

# きしわだ自然資料館
# 特別展「タコの王国」

開催期間：2019年4月1日（月）～2020年5月31日（日）

## 【企画展の内容・目的】

■地域の水産物としてなじみのあるタコを切り口に、海の環境やそれがかかえている問題、人と海との関わりを紹介する展示や事業を展開し、幅広い年齢層の人たちの海への関心を高め、保全も含めた海洋環境について総合的に学ぶ機会へとつなげた。

■タコをテーマに地域や分野の異なる博物館と連携した事業を行うことで、関連施設との人材の交流をはかり海の学びに精通した指導者の育成を行う契機としつつ、来館者に対しては付帯事業等で海を扱う博物館施設の認知度を高めることで、より多くの人に海に親しんだり、知ることができる機会を増やすことにつなげた。

■展示で開発したプログラムは、事業終了後も学校への出前事業や巡回展示等で継続的に活用し、本事業内容のさらなる周知に務めることで、海に親しみ、守りたいと思う次世代にむけた人材育成につなげた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

# 1．企画展示の内容

■開催期間：2019 年 11 月 16 日（土）～2020 年 1 月 26 日（日）

■開催場所：きしわだ自然資料館　1 階ホール

■入場者数：4,691 人

きしわだ自然資料館　外観

会場　入口

会場内の見学状況

会場内の見学状況

一般の人々にとってなじみ深い「タコ」に関する総合的な展示を実施した。日本近海で見られるタコの種類や生態、漁法、民俗、歴史など、タコに関する多様な話題を分野を超えて紹介することで、身近な海に興味をもってもらうきっかけとし、タコがすむ豊かな日本列島の海や、タコと日本人の長いつきあいの一端にふれてもらえるようにした。

・2014 年度に同支援を受けた企画展「タコとタコツボ」が好評であったことから、タコをテーマにすることは、それが潜在的に持つ魅力により、さらに多くの人に海を周知することができると考えた。

・当館は自然科学がテーマの博物館だが、人文科学も含めて総合的に海を紹介することで、自然科学に興味のうすい層の参加を促すとともに、当館のメインターゲットである自然科学に興味をもつ人たちにも、多面的な海の学びを提供でき、多彩な分野への興味喚起が可能となった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

日本近海にタコ何種？

日本のタコツボ大集合

「日本近海にタコ何種？」のコーナーでは、日本近海に 58 種いるとされるタコの多様な姿形を実感してもらえるよう、可能な限り多くのタコの標本や画像、動画、模型を展示し、その形態のおもしろさを視覚的に訴えるようにした。また、タコが実際に動いている姿から、その生態への関心を高められるよう、近海で採集したマダコやスミレダコ・イイダコを水槽で飼育展示したが、こうした生体や動画による展示は、標本だけではわからない行動の理解につなげた。また、展示ミニガイドを発行・配布することで、見学後に内容のふり返りができるようにした。

「日本のタコツボ大集合」コーナーでは、当館が所蔵するもののほか、奈良大学博物館や鳥羽市立海の博物館から日本列島各地で使われていたタコツボを多数借用して展示した。タコツボは、地域の環境や事情にあわせてつくられていて形状が一様ではないことを視覚的に実感でき、何気なく食べているタコがどのように漁獲され、さらには過去の漁獲法や利用法なども学ぶことで、これからの海のめぐみの利用について考える契機とした。

タコタコ体験コーナーの使用状況

タコタコ体験コーナーの使用状況

「タコタコ体験」コーナーでは、人が入れるサイズのタコツボを設置し、その暗さや狭さを実体験できるようにした。また、熊本県天草市商工会がつくったタコの着ぐるみ「すいとっとダンサーズ」の衣装を着用して写真撮影ができるようにしたところ、多くの来館者による体験利用があった。こうして着用できる衣装を設置することは、展示室内での写真撮影のきっかけになるもので、本展とその展示内容の長期にわたる記憶とふり返りにつながるのではないかと考えられる。

また今回は、展示室内の図書コーナーに配架するタコの関連書籍を、図書館で科学イベントを開催している司書団体「ほんとほんと」のメンバーに選んでもらったが、専門家による選書でこれまで以上に高評価を得た。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

専門家による見学のようす

入れるタコツボの使用状況

今回の特別展では、展示構成や造作物のデザインなどを検討する初期段階から、展示技術の専門家やデザイナー、イラストレーターなどの外部人材に深く関わってもらうようにした。その結果、展示台の脚を赤いカラーコーンと水道管保温材を使ってタコの腕を模した形状にしたり、日本各地のタコツボをピラミッド状に配置して天井から吊したヒモと結びつけ、ヒモの色でカテゴライズを行なったりするなど、学芸員には思いもよらないアイデアが生み出され、展示内容を効果的に伝えるだけでなく、来館者によるロコミでの宣伝効果をも引き出すこととなった。また、展示や博物館の専門家からもこれまでになく注目を集め、ブログやSNS 等で広く紹介されたことが、さらなる来館者の増加につながった（例：ゆるジオ「入館者数で計れない地域博物館の魅力満載『きしわだ自然資料館』」）。」

展示を見学する目的の中心はそこに並ぶ標本や資料にあるが、それを効果的に見せるための展示構成や造作物のデザイン等を工夫することでその魅力がさらに高まり、興味・関心を引き出すとともに、展示意図の深い理解につながることが実感された。マスコミ露出がほとんどなかったにも関わらず来館者が例年より多かったのは、通常より広報範囲を拡大させたことに加え、こうした来館者による情報拡散の効果が大きかったことを示すものと考えられる。

また今回は、人文分野である考古学関係者からの協力を受けたことで、日本最古のタコツボという話題性のある資料のほか、弥生から近世に至る時代ごとのタコツボの変遷を実物資料で展示することができた。この展示はとくに地元漁業者の関心を集め、漁の際に引き上げられることがある古いタコツボの、博物館への持ち込みを促す効果をもたらした。

## 【来館者の声】

○海を大切にしなければ、貴重な資源が守られないと思いました（40 歳女性）
○タコのすむ海を汚したくないと思いました。もっと自然のことについて知りたいと思いました（12 歳女性）
○海でもメジャーどころのタコなのに何も知らないと感じました。神秘の海の片鱗に触れたような気がしました（37 歳女性）
○海洋環境を保全再生することの必要性を感じました。多くの子ども達にこの展示を見てほしいと思いました（60 歳女性）
○入れるタコツボがおもしろかった（各年代から多数）
○タコのリアルな映像がよかった（おとな多数）
○タコツボの多様さに目を奪われた（各年代から多数）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

# 2．関連事業の内容

## ■タコの海実習

【開催日時】2019年4月21日（日）・7月14日（日）・8月31日（土）・12月14日（土）・12月15日（日）・2020年1月18日（土）・1月19日（日）・1月25日（土）・2月2日（日）

【開催場所】岸和田漁港・きしわだ自然資料館（以上大阪府岸和田市）・せんなん里海公園（大阪府阪南市・岬町）・大阪市立自然史博物館（大阪府大阪市）・国立公園成ヶ島（兵庫県洲本市）・仁頃漁港（兵庫県南あわじ市）

【参加者数】350人

【実施内容・目的】

●タコの形態・生態とその生息環境、タコ漁とそれを行っている漁港、人との文化的な関わり、海洋生物の進化、さらには生物の生息環境に関連した地質について広く学ぶため、専門家および学芸員指導のもと、室内実習や野外観察会を行った。特別展を見学することでタコやタコツボに関心を持った人、あるいはまだ来館していないが特別展に興味を持っている人への深い海の学びを提供した。

●タコをとりまく環境や社会とのつながりを紹介し、それらが普段の食生活やより大きな環境問題にもつながっているという認識を広め、幅広い年齢層に対しその保全の必要性の理解を促した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

●野外実習の際には、タコが好む磯や干潟などで実際にタコをさがすだけでなく、タコが生息する海という環境やその周辺の地質についても専門家が解説するとともに、タコ以外の生き物についても取り上げるようにした。また、海洋生物の進化から現在の海への関心につなげるため、タコに近縁なアンモナイト類やその化石が見つかる中生代の地層などをテーマにした実習も実施した。

●漁港見学では、漁港内の施設を見学するだけでなく、実際にタコツボ漁をしている漁業者の方に話をしていただき、さらにその日に漁獲されたタコとそれ以外の生物を同時に観察することで、タコとさまざまな生き物のつながりの実感につなげた。
●タコやその他の生物の計測や解剖を行うなど、生物の形態についてくわしく学べる機会を設けた結果、幅広い年齢層の参加者から好評を得た。低年齢層に対しても、特定の生物について深く学ぶ形式の実習は十分成立することが明らかになった。

## 【来館者の声】

○海にはゴミがいろいろあったが、生き物は力強くいきていた。私たちは海をもっと大切にしなければならない（39 歳男性）

○いろいろな生き物がいて楽しかったし、おもしろくてドキドキがいっぱいで、うれしかった（7 歳男性）

○漂流ゴミが多かった。ゴミをなくしたいと思った（61 歳男性）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

## ■海の日まつり

【開催日時】2019 年 7 月 15 日（月・祝）13:30～16:00
【開催場所】きしわだ自然資料館 1 階ホール・2 階展示室・3 階ロビー
【参加者数】334 人
【実施内容・目的】

●地域住民の身近な海への関心を高め、「海の日」という祝日の意義を広く周知するため、来館者が海やタコに関連した実験や工作を体験できるブース 10 種類を設置した。また、11 月から始まる特別展の広報も行った。

●実習については、近隣博物館や海に関連した活動を行っている市民団体に声をかけて出展してもらうことで、人文分野も含めた多彩な内容で実施した。当日は、近隣の高等学校生物部の生徒に補助スタッフとして関わってもらうようにした。

海の日まつり会場入口

海の日まつり会場のようす

飼育展示コーナーの見学状況

海の日まつり会場のようす

●海の日は夏休み直前にあたるので、自由研究などのテーマを提供することができ、家庭での学びを促すことにつながった。とくに「チリメンモンスター」は、家庭での継続的な取り組みの希望が多く、実施方法やまとめ方などをくわしく尋ねる質問を多く受けた。
●補助スタッフとなった高校生には、多くの参加者や出展団体の関係者と対話する場となり、そのやりとりの中から自らの役割を主体的に考える機会が生まれ、海の学びの楽しさや海洋環境保全の大切さを伝える次世代の人材育成につながった。

●多彩な分野の活動を行っている博物館や団体と連携し、海に関連した実習ブースを設置することで、自然科学と人文科学の垣根を越えたより深く広範な海の学びの体験につなげた。
●海に関連した図書を楽しむコーナーは、海の生物や環境などに精通した図書館司書の協力を得て選書し、図鑑だけでなく絵本や小説など多様な分野の図書を配架したことで、家庭での継続的な海の学びに活用できると参加者から好評を得た。本事業では、家庭学習への橋渡しを効果的に行うことができた考えている。

## 【来館者の声】

○津波などを見ると海は怖いけど、大切にしたいとおもった（7 歳男性）

○海について活動する団体がたくさんあることを知ることができた（45 歳女性）

○いつまでもきれいな海が守れたらよいとおもった（56 歳女性）

○海のいきもののかたちがとてもおもしろかった（4 歳男性）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

## ■タコマスター養成講座

【開催日時】2019年6月29日（土）・7月28日（日）・8月25日（日）・9月7日（土）・10月20日（日）・11月17日（日）・12月1日（日）・12月14日（土）・2月1日（土）

【開催場所】きしわだ自然資料館・大阪府立弥生文化博物館・大阪市立自然史博物館

【参加者数】84人

【実施内容・目的】

●海の生物や環境、漁業などに興味のある中学生以上の地域住民を募り、専門家による複数回の講義や実習を通じて海の学びのスキルアップを図るとともに、展示や行事の際の補助スタッフとなる人材の育成にもつなげた。

●タコを中心に、海に関する総合的な知識のレベルアップを図ることができるよう、月1回の頻度で学習会や見学会などを実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で、2月下旬以降の事業は中止した。

●初回の「タコ概論」では、40年以上にわたり大阪湾の生物の調査研究をされてきた、元大阪府立水産技術センター研究員の鍋島靖信氏に、タコの生態や形態、文化史などを概論的にご講演いただいた。内容的には、これ以降に実施する各論講座につながる配慮がされており、導入の講座として意義深いものとなった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

タコ解剖講座のようす

古生物の専門家による体験実習

●２回目以降は、考古学的な見地からのタコツボの変遷、タコの体の構造を学ぶ解剖講座、タコの進化について学ぶ古生物講座などを開催し、タコについての多面的な理解を促した。タコの解剖講座は一般向けにも実施したが、経験のある養成講座参加者が補助スタッフとして関わったことで、一般参加者、養成講座参加者のいずれにとっても海の学びの理解をより深める効果をもたらした。

水族館スタッフによる体験実習

海の博物館学芸員による講演

●ほぼ同じメンバーで行った 10 回の講座を通じて参加者同士の交流が盛んになり、講座以外での自主的な活動に発展する効果も生み出した。また、展示解説などを行っているきしわだ自然資料館のアドバイザーやボランティアスタッフも一部の養成講座に参加したが、そこで得た知識は特別展会期中の来館者対応に効果的に活用された。

## 【来館者の声】

○タコのことについてとても興味深く楽しく教えていただけた。（69 歳男性）

○大阪近辺にもっと親しめる海が身近にあればなと思った。（68 歳女性）

○海について知ることが海を守り、海を持続的に利用することにつながると感じた（22 歳男性）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■タコタコスタンプラリー

【開催日時】2020 年１月４日（土）～3 月 24 日（火）

【開催場所】さかい利晶の杜・大型児童館ビッグバン・小谷城郷土館（以上、堺市）・和泉市いずみの国歴史館・佐竹ガラス株式会社 流工房・大阪府立弥生文化博物館（以上、和泉市）・池上曽根弥生学習館（泉大津市）・きしわだ自然資料館・岸和田城・岸和田だんじり会館（以上、岸和田市）・貝塚市郷土資料展示室・貝塚市歴史展示館・貝塚市立自然遊学館（以上、貝塚市）・泉佐野ふるさと町屋館（泉佐野市）・泉南市埋蔵文化財センター（泉南市）

【参加者数】211 人

【実施内容・目的】

●泉州・紀北ミュージアムネット加盟館のうち、タコや海に関連した展示や事業を行っている博物館を巡るスタンプラリーを開催した。海と特別展への関心を高めるとともに、分野を超えた博物館の連携強化につなげた。

●さまざまな分野の博物館に足を運んでもらえるよう、スタンプポイント 15 ヶ所のうち４か所のスタンプを集めることで、各館が持ち寄ったオリジナルグッズなどの景品をプレゼントするようにした。参加館には自然系博物館だけでなく、タコツボ展示のある歴史・考古学系博物館、漁具や地域の歴史を扱う郷土系博物館のほか、児童館やガラス細工の製造工場も含まれ、スタンプ集めを通じた海の学びの機会創出につなげた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

●泉州地域の博物館では、広報活動が十分できておらず、地元住民の間でもよく知られていない施設が珍しくない。このスタンプラリーでは、身近な地域に海のことを学べる博物館が存在することの周知も目的とし、一つの市にある施設を回るだけでは集めることができない４個という必要スタンプ数を設定して、少し離れた地域の博物館にも足を運んでもらえるようにした。実際に、多くの参加者が居住地以外の博物館を訪れていた。

●スタンプポイントとなった博物館は、それぞれに工夫をこらし、スタンプラリーとそれを通じた泉州地域の博物館の周知に務めていただいた。異分野の博物館が連携して事業を実施したことは、この地域にある海を扱う博物館の認知度を高め、より多くの方が各施設へ足を運ぶ相乗効果をもたらし、ひいては海の学びの広範な普及につながったと考えられる。

## 【来館者の声】

○きしわだ自然資料館の展示で抱いた興味や関心が、周辺の博物館展示に広がることで、違った切り口で海を考えるきっかけになった。漁業資源とむすびつく地域文化や技術に心ひかれた（40 代男性）。

○この企画のおかげで、貝塚の自然遊学館を訪れることができた。自転車で行くことができた。スタンプラリーは楽しいので今後も期待します（60 代女性）

○海でたこつぼ漁をはじめた理由が知りたくなった（50 代男性）。

○おさかなを守りたいと思った（10 代男性）

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

## 【事業全体のまとめ】

今回の事業では、新たな連携と新たな博物館利用者の創出をともに達成できた。まず新たな連携としては、これまでも関わりの多かった自然系博物館だけでなく、民俗学や考古学など異分野の博物館・団体とも全面的な協力関係を構築できたことが挙げられる。また自然系分野でも、遠方にある大学や研究所など、これまで学芸員が個人的につながっていただけの施設から組織的な協力を受け、展示と付帯事業の両方で成果を上げることができた。また付帯事業では、近隣の高校や博物館とも有意義な連携体制を実現できた。

一方、新たな博物館利用者の創出については、当館の企画展でははじめて展示設営の初期段階から展示技術の専門家やデザイナーなどの外部人材に深く関わってもらい、そのアドバイスを受けながら計画と設営を進めたことが挙げられる。工夫凝らした造作は、展示意図を効果的に伝えるだけでなく来館者の興味・関心も高め、口コミでの宣伝効果を引き出すこととなった。展示資料そのもののおもしろさだけでなく、それを効果的に見せるための技術的な工夫が新たな博物館利用者の創出につながることを実感できたように思われる。ポスター・チラシ・ガイドブック・スタンプラリーなどの印刷物についても同様で、当館と関わりの深い商業出版物の編集者・イラストレーターの手になる魅力あるデザインとなり、これも来館の動機付けに貢献したと思われる。さらにパネル・キャプションのデザインについても、他館での実績があるNPO法人に依頼することで、読みやすいだけでなく展示空間とマッチしたものを制作できた。新型コロナウイルス感染症の影響で、スタンプラリーや観察会など一部の事業の縮小せざるを得ない事態となったが、これらの新たな取り組みにより十分に目標を達成しており、同時期に開催したこれまでの特別展の中でもっとも多い来館者数となるに至った。

## 3．主な連携・協力先について

| 連携・協力先名称 | 連携・協力の内容 |
|---|---|
| 1．泉州・紀北ミュージアムネットワーク | 展示協力・タコタコスタンプラリー協力 |
| 2．深日漁業協同組合 | 展示協力・タコの海実習協力 |
| 3．奈良大学博物館 | 展示協力 |
| 4．鳥羽市立海の博物館 | 展示協力・タコマスター養成講座協力 |
| 5．琉球大学博物館 | 展示協力 |
| 6．兵庫県立人と自然の博物館 | 展示協力 |
| 7．鳥取県立博物館 | 展示協力 |
| 8．大阪市立自然史博物館 | 展示協力・タコマスター養成講座協力・タコの海実習協力 |
| 9．兵庫古生物研究会 | タコの海実習・タコマスター養成講座協力 |
| 10．灘仁頃町会（兵庫県南あわじ市） | タコマスター養成講座・タコの海実習協力 |
| 11．大阪府立弥生文化博物館 | 展示協力・タコマスター養成講座・タコの海実習協力 |

## 4．主な広報結果について

| 掲載媒体名 | 見出し、掲載日 |
|---|---|
| 1．テレビきしわだ | 5時やん！くるくる回覧板「タコの王国」（12月6日～13日まで毎日） |
| 2．サンケイリビング | 特別展「タコの王国」大阪みなみ1886号（2020年1月17日） |
| 3．公明新聞 | 南大阪のミュージアム（2019年11月25日号） |
| 4．広報きしわだ | 自然資料館の特別展「タコの王国」（2019年11月1日号） |
| 5．fromM　第76号 | タコのよもやま話～特別展「タコの王国」の展示内容（2020年4月11日） |

以上

※上記写真等は特別許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。